

後柏原院本『源氏物語』の仮名字母と本文表記

―室町時代写本との比較を通して―

齊藤 鉄也

一 はじめに

本稿では、仮名字母の出現傾向と本行本文の表記の類似性の点から、室町時代に書写された『源氏物語』写本と後柏原院本『源氏物語』を比較した調査結果を報告する。本調査では、計量的な方法を用いた、(1)仮名字母の出現傾向の基づく写本の分類と、(2)表記が類似する本行本文を持つ写本の探索、(3)これら調査結果と『実隆公記』の記述の比較を行う。これまでの計量的な方法による、仮名字母の出現傾向の調査からは同筆の可能性がある写本を指摘できることが、また、本行本文の表記の調査からは同系統内で異同が少ない写本を指摘できることが明らかにしている。この知見を用いることで、調査対象写本間において、同筆の可能性がある写本と、その本行本文が類似する写本を指摘し、今後の写本調査に寄与することを意図している。

仮名字母の出現傾向の調査対象写本には、後柏原院本に書写年代が近い(と考えられる)『源氏物語』写本である、高松宮家本、大正大学本、書陵部蔵三条西家本(以下、書陵部本)、室町時代補写の保坂本に加え、後柏原院本の伝称

筆者の一人である三条西実隆が書写に関わっている吉川史料館蔵吉川（青表紙）本（以下、吉川本）、日本大学蔵三条西家本（以下、日大本）、蓬左文庫蔵三条西家本（以下、蓬左文庫本）、榊原家本「桐壺」、これまでの調査から仮名字母の出現傾向が三条西実隆筆写本と似る紅梅文庫旧蔵本（以下、紅梅本）「横笛」の三百九十四写本を選択した。本行本文の表記の調査対象写本には、これらの写本に加え、池田本、大島本、國學院大学本（以下、國學院本）、紅梅本、国文研蔵正徹本の二百五十七写本を選択した。

本調査結果をまとめると、仮名字母の出現傾向の調査結果から、後柏原院本は、書写年代が近いと考えられる高松宮家本や書陵部本、保坂本といった写本の一部の巻と同筆の可能性がある巻を指摘することができ、また、本行本文の表記の調査結果からは、同系統内で異同が少ない関係にある写本を、紅梅本と六巻で指摘することができた。比較対象とした、その他の写本は、これ以下の巻数でしか、その関係を指摘することができず、多くの巻で表記が類似する写本は存在しなかった。これらの調査結果と『実隆公記』の記述を比較した結果は、記述内容と一致する巻と一致しない巻が混在したことから、後柏原院本との関係を明らかにすることはできなかった。

二 本調査の目的

本研究の目的は、「誰がどの親本を用いて一揃えの写本を作成したか」という疑問に対して、仮名字母を用いて書写者を推定し、表記を用いて本文が類似し転写された可能性がある写本を指摘することである。本調査では、仮名字母の出現傾向と本行本文の表記の類似性の調査によって、後柏原院本『源氏物語』の位置付けを明らかにすることを目的とした。

前稿までの計量的な方法に基づく調査によって、仮名字母の出現傾向の調査からは同筆の可能性がある写本を、また、本行本文の表記の調査からは同系統内で異同が少ない写本を指摘できること示してきた^{〔1〕}。この知見を用いることで、各巻ごとに調査対象写本と比較対象写本間の関係を概観することができ、その後の調査において、調査対象とする写本を選択し、調査の効率性の改善に寄与が期待できる。本調査では、計量的な方法を用いるため、同一の形式を持つ本文データを用意すれば、方法の統一性に基づく一貫性のある結果を得られることと、大量の写本を一括して調査対象とすることができるとの利点があり、特定の巻だけではなく、全巻を調査対象とすることが可能である。その一方で、巻ごとの本文の異同や脱落の精緻な検討はできない限界がある。そのため、本調査は写本の位置付けを概観することに適しており、その後の専門家による精緻な調査を必要とする。

本調査では、さらに、この調査結果を、『実隆公記』の後柏原院が関わった『源氏物語』写本の作成の記述と比較する。調査結果と記述の一致点と矛盾点を明らかにし、後柏原院本との関係を考察する。定量的な本調査結果と定性的な文献調査結果の比較によって何らかの指摘が可能であれば、本方法の有効性を示すことができるだろう。

三 調査対象写本と本文データ

後柏原院本は、国文研資料館マイクロフィルムにて閲覧可能な写本である。その伝称筆者に三条西実隆が指摘されることから、前稿までに調査した実隆が関連する四写本に加えて、室町時代写本を中心に比較対象写本を選択し、共に調査することとした。

三・一 調査対象写本の概略

阿部秋生氏による「新編日本古典文学全集25巻」にある底本・校合本解題に基づくと、後柏原院本は「早藏」「夢浮橋」を欠く五十二帖の写本であり、各巻は定家（青表紙）本系統の本文を持つ。写本は寄合書きで、付属の目録には後柏原院の他に、逍遙院、飛鳥井雅康との伝称筆者が指摘されている。その推定書写年代は、後柏原院の践祚（明応九年1600）以前に書写されたかとの指摘があるが不明である。「花宴」の奥書に、日大三条西家本「花宴」奥書と類似した記述がある。

本調査で後柏原院本の比較対象として用いた写本は、前稿までに用いた室町時代を中心に書写された写本に加えて、書写年代が近いと考えられる高松宮家本、所蔵者により画像公開されている國學院本、国文研蔵正徹本を新しく選択した。これらの写本は、解題も記述されていることから、その詳細に関しては省略する。

仮名字母の出現傾向の調査は、同筆の可能性がある写本を分類することが目的であるので、（推定）書写年代が近い、または伝称筆者が重なると考えられる写本と比較する。具体的には、長享二年（1488）に書写された写本が多い高松宮家本、延徳二年（1490）と明応二年（1493）に書写された写本を持つ大正大学本、推定書写年代が延徳元年（1489）から永正三年（1506）と指摘される書陵部本に加え、永正年間（1504-1521）補写されたかとの指摘がある保坂本、永正十三年（1516）から永正十七年（1520）の間に書写されたとの指摘がある吉川本、大永五年（1525）と享禄三年（1530）、享禄四年（1531）に書写された日大本、享禄二年（1529）から天文二年（1533）の間に書写されたとの指摘がある蓬左文庫本である。また、享禄四年（1531）書写の三条西実隆筆写本である榊原家本「桐壺」、これまでの調査結果から実隆筆写本と仮名字母の出現傾向が類似する紅梅本「横笛」を含む。

本行本文の表記の調査は、本行本文の表記が類似する写本を探索することが目的であるので、定家本系統の写本と

比較する。具体的には、仮名字母の出現傾向の調査と同様の、大正大学本、書陵部本、室町時代補写の保坂本十七帖、吉川本、日本本、蓬左文庫本に加え、紅梅本と紅梅本が欠巻または補写である「蓬生」「若菜上」「総角」は熊本大学附属図書館本（以下、熊大本）、大島本、池田本、室町時代書写の國學院本四十七帖、国文研蔵正徹本である。

三、二 作成した本文データ

調査に用いた本文データの作成方法は、前稿までと同様であるので、ここではその概要を示す。本文データは、本行本文を対象とし、傍記を含まず、写本と同じ行数を持つ。本文中の一拍で読む漢字は仮名と見做している。本文の調査対象範囲は5000文字程度とし、調査対象写本間で本文上の同位置まで調査している。本文長が5000字に満たない巻は全文を調査対象としている。本文が5000字以上で、全文調査している巻は、「初音」「行幸」「藤袴」「鈴虫」「早蕨」である。本文の調査対象範囲の決定は、計量的な調査の際に必要な前提条件を確認した結果に基づく。写本間の仮名字母の出現傾向は、5000文字以上からほぼ一定になること^{〔2〕}と、本行本文の表記の相違の程度は巻によって異なるが、必ずしも本文長との関係は明らかでないこと^{〔3〕}による。今回新しく調査対象として加えた写本の仮名と漢字の文字数を本稿末の表一にまとめた。

四 調査方法

調査方法も、前稿までの報告と同様であるので、ここではその概要を述べる。本調査では、計量的な方法を用いて写本を調査する。そのため、仮名字母の出現傾向の調査では、本文の仮名字母の出現頻度を、本行本文の表記の調査

では、本文の断片の出現頻度を求め、数値化して取り扱う。それぞれの頻度は、統計的分類方法によって計算され分類される。

四・一 仮名字母の出現傾向の調査

仮名字母の出現傾向とは、写本の本行本文に出現する、同音の仮名の字母の出現率の総体である。言い換えるならば、調査対象とした写本文に用いられている、仮名字母の出現率の分布を、仮名字母の出現傾向と見做している。これを、統計的分類方法を用いて分類し、書誌情報と比較する。統計的分類方法を用いた、これまでの調査結果からは、書誌情報に同筆との指摘がある写本は、その仮名字母の出現率の分布が類似し、多くの同筆写本とグループを構成することが明らかになっている。この知見を利用し、調査対象写本全てを一度に統計処理を用いて分類する。分類結果のうち、一定の基準に従ってグループを構成する写本を選択し、それらを同筆の可能性がある写本と見做している。

本調査では、仮名字母を対象としていることから、親本の字母まで忠実に書写した他筆写本が存在する場合は、親本と同筆に分類されることとなる。この場合は「誤分類」されてしまうため、本方法の結果だけでは、同筆との判断はできず、同筆の可能性の指摘に留まる。同筆と判断するためには、また、その様な他筆写本の位置付けを明らかにするためには、筆跡や奥書といった異なる根拠によって確認する必要がある。

四・二 本行本文の表記の調査

本行本文の表記の調査では、漢字と仮名の使い分けや送り仮名、音便といった本行本文の表記の相違が対象となる。そのため、本文異同を対象とした本文系統を分類する調査とは、その結果が異なる。分類方法は前稿までと同様であ

るので概要を述べる。写本の本行本文を、その先頭文字より順に五文字の長さの断片(5gram)に分割し、その断片を集計し頻度を求める。本文が類似すれば、断片の頻度も類似すると考えられることから、その頻度を対象に統計的分類方法を用いて、写本をグループに分類する。

本行本文の表記が類似する写本は、同系統の本文を持つとされる写本の中でも、転写過程を共有するといった、伝来に何らかの関係がある写本間関係にあると考えられる。この写本間関係は、臨模の関係にある場合から同系統内で異同が少ない関係にある場合まで、その程度によって類似性に差がある。本調査では、表記の類似性を、(1)臨模の関係、(2)行詰めや字詰めが一致する関係、(3)親本が共通する関係、(4)同系統内で異同が少ない関係の四段階に分け、写本を分類する。

五 調査結果と考察

仮名字母の出現傾向の調査結果を図一として、本行本文の表記の調査結果を表二として、本稿末にまとめた。図一では、調査対象とした写本のうち、後柏原院本は全帖、その他の写本は仮名字母の出現傾向が後柏原院本のいずれかの巻と類似する写本だけを示している。図一では、同筆の可能性がある写本グループを灰色で強調し、全部で十六グループに分類できたことを示している。表二では、比較対象とした写本を行方向に、巻名を列方向とした一覧表として、全帖を対象に本行本文の表記の類似性を示している。表中の写本名は比較対象写本を二文字の略称で表している。表中の記号は以下の意味で用いている。☆は臨模の関係、◎は字詰めと行詰めが一致する関係、○は共通の親本を持つ関係、●は異同が少ない関係にあることを示す。斜線は欠巻または調査対象ではないことを示す。紅梅本の*(ア

スタリスク）は欠巻または補写のため、熊大本で代用していることを示す。

五・一 仮名字母の出現傾向の調査結果と考察

図一に基づき、最初に、分類結果と伝称筆者の比較を述べる。次に、これまでの調査によって、三条西実隆書写の写本の仮名字母の出現傾向は、書写年代によって異なると考えられることから、後柏原院本の書写年代の推定を試みる。

最初に、分類結果と伝称筆者の検討をする。後柏原院本のうち、後柏原院筆とされる写本は、仮名字母の出現傾向の点から同筆の可能性がある一つのグループに分類することはできなかった。伝称筆者を同じくする、これら写本が同筆であるとすれば、その仮名字母の出現傾向が異なっていることから、この分類結果を説明する一例として親本の字母を忠実に書写した可能性を指摘できる。これに関しては、後柏原院筆とされる古典籍や同時期に書写された写本との追加調査が可能であれば、何らかの知見が得られる可能性もある。

その他の写本の分類結果は、高松宮家本、書陵部本、大正大学本、室町期補写の保坂本といった、書写年代が後柏原院本と近いかと考えられる写本や、三条西実隆が関わった吉川本や日大本、蓬左文庫本に、同筆の可能性がある写本が存在することを示している。これらの写本の書写年代は約五十年間に渡ることから、仮に後柏原院本が解題に指摘される踐祚（明応九年1500）以前に書写されたとすれば、蓬左文庫本といった書写年代が下る写本に関しては、親本の字母を忠実に書写した可能性も考えられる。

また、同筆の可能性があると分類された、これらの写本グループを構成する各写本は、伝称筆者が同一人物との指摘がある場合もあれば、異なる場合もある。今回の分類結果に基づき、同筆の可能性がある写本グループに関しては、

筆跡の確認によって、これらの書写者に關して検討し、推定書写年代を考察することが可能であろう。また、同一の写本グループを構成する伝称筆者が複数存在する場合であっても、伝称筆者の中に親族が指摘されていることもあるので、筆跡を確認することで書写年代の範囲を狭めることも可能であろう。

次に、写本が多く残る三条西実隆の仮名字母の出現傾向を用いて、後柏原院本の書写年代の検討を試みる。後柏原院本の、伝称筆者に実隆が指摘される写本は、吉川本や日大本、蓬左文庫本の実隆筆との指摘がある写本と、同筆の可能性があるグループに分類される。このため、これらの伝称筆者の指摘は、蓋然性が高いと考えられる。

仮名字母の出現傾向に基づき、実隆筆とされる『源氏物語』写本は、これまでの調査によって、長享二年(488)書写の高松宮家本「松風」を含む写本グループと、永正十三年(1516)から永正十七年(1530)に書写されたかとされる吉川本「帚木」と、享祿四年(1531)書写の榊原家本「桐壺」、享祿二年(1529)から天文二年(1533)に書写されたかとされる蓬左文庫本「空蟬」を含む写本グループの二つに分類することができる。これまでの調査から、この他に、実隆筆写本は、享祿三年(1530)から享祿四年(1531)に書写された日大本を中心とした写本グループに分類することができるが、後柏原院本とは別グループを構成するので、図一には含まれていない。実隆筆と指摘される後柏原院本の写本は、長享二年(488)書写の高松宮家本「松風」を含む写本グループに分類される。このことから、後柏原院本は、後柏原院践祚前後の長享二年(488)から永正十三年(1516)の間に書写された可能性を指摘できる。

公順筆と指摘される後柏原院本は、公順筆を中心とした一グループに分類されている。このグループの中で、後柏原院本の公順筆写本は、吉川本と近接する。この写本が公順筆であるとするならば、公順の生年が文明十六年(484)であるので、公順が実隆の書写活動に参加できる年齢まで、推定書写年代は下ることとなるだろう。宮川〔4〕によれば、文亀二年(1623)八月晦日に公順と公条が「書写を手伝い始めた初見」との指摘があり、この年は公順十八歳、公条十五

歳に該当する。公順筆写本から推定される後柏原院本の書写年代は、文龜二年(1502)前後がその上限となるだろう。

五・二 本行本文の表記の類似性の調査結果と考察

調査結果を表二にまとめた。表では、表記の類似度に応じて、記号でその程度を表している。これまでの調査からは、表記が類似する写本は、同系統内で異同が少ない関係にある写本が多く、より類似する共通の親本を持つ関係や行詰めや字詰めが一致する関係にある写本は少ないことが明らかになっている。

書写年代が近いと考えられる定家本系統の写本を中心に、本行本文の表記を計量的に比較した結果、今回比較対象とした写本に関しては、多くの巻で表記が類似する特定の写本を指摘することはできなかった。後柏原院本と表記が類似すると指摘できる巻数が最も多い写本は、紅梅本の六巻であった。実隆が関わったと考えられる書陵部本や吉川本、日大本、蓬左文庫本といった写本においても、後柏原院本と表記が類似する巻の数はより少ない結果となった。後柏原院本のうち、伝称筆者に実隆が指摘される巻が、これら実隆が関わった写本と表記の類似性を指摘できる、という傾向も示していない。表記の点からは、今回調査対象とした特定の一揃えの写本との関連性は明らかにできなかった、と言える。この結果は、後柏原院本が様々な所蔵者から親本を取り合わせて作成された結果であるのか、多くの巻で表記が類似する未調査の写本が存在しているのか、は不明であり、今後の調査で明らかになる可能性もある。

五・三 『実隆公記』の記述との照応

『実隆公記』には、文明十八年(1486)十月一日より長享三年(1489)一月八日まで、後柏原院が勝仁親王時代の『源氏物語』写本作成に関する記事がある。ここでは、後柏原院本と『実隆公記』に記述される後柏原院による『源氏物語』写

本を区別するために、後者の写本を勝仁親王本と呼ぶこととする。加えて、文明十八年(1186)十月二日には伏見宮邦高親王の『源氏物語』写本作成に関する記事がある。これらの『実隆公記』の記事と、後柏原院本の仮名字母の出現傾向と本行本文の表記の類似性の調査結果を比較し、各巻ごとにその一致点を確認した。尚、本稿の『実隆公記』の記述の解釈は上野⁵⁾に基づく。

比較の結果、「夕顔」「明石」「柏木」「総角」に関しては勝仁親王本の記述と後柏原院本の分類結果が一致し、「胡蝶」「手習」は一致する可能性があり、「須磨」「宿木」は一致しないことが明らかになった。このため、勝仁親王本と後柏原院本の関係は不明である。以下、各巻に関しての記述と調査結果をまとめた。『実隆公記』の記事の記述の引用の〔〕は割書されていることを示す。

五. 三. 一 「夕顔」

最初に『実隆公記』の記事を挙げる。次に後柏原院本の調査結果と比較する。『実隆公記』の記事は、文明十八年(1186)十月二日「竹園源氏御本夕顔卷可書□末摘花〔教国卿〕葵〔宣親卿〕各可伝達之由也、若紫卷為写□被召之、同進上了」である。

これは伏見宮邦高親王の『源氏物語』写本の記事である。しかし、後柏原院本「末摘花」と「葵」の伝称筆者は、それぞれ滋野井教国と中山宣親であり、この記述に一致する。後柏原院本「若紫」の伝称筆者は不明である。

「夕顔」に関しては勝仁親王本の記事もある。文明十八年(1186)の十月六日「今日親王御方源氏御本〔夕顔〕立筆」、十月二十九日「終日源氏物語〔夕顔卷〕書之」、十一月一日「源氏物語〔夕顔〕終書写功校合了」、十一月三日「源氏物語〔夕顔〕令進上宮御方了」である。

仮名字母の出現傾向に基づく分類結果から、後柏原院本「夕顔」は、その他の伝称筆者として実隆が指摘される後柏原院本の写本と共に分類され、『実隆公記』の記事と一致する。また、本行本文の表記は、日大本と紅梅本と同系統内で異同が少ない程度に類似する。

五・三・二 「須磨」

『実隆公記』の「須磨」に関連した記事は次の二種類が存在する。文明十八年(1486)十一月十七日「早朝姉小路来、須磨巻校合」と文明十九年(1487)一月九日「親王御方源氏物語御本、〔須磨〕書写之」である。

前者の「須磨」はどの写本に関してかは記述がなく不明である。後者の「須磨」は勝仁親王本であり、実隆が書写したと考えられる。後柏原院本「須磨」は伝称筆者として姉小路済俊が挙げられ、実隆筆と考えられる勝仁親王本「須磨」とは一致しない。伝称筆者として姉小路済俊が挙げられる後柏原院本の写本には、この他に「紅葉賀」「少女」「行幸」「横笛」がある。仮名字母の出現傾向の分類結果から、これらの写本は、同一のグループに分類される。姉小路済俊は永正三年(1506)生まれであるので、文明十八年の記事の姉小路家の人物には該当しないと考えられる。

五・三・三 「明石」

『実隆公記』の「明石」に関連した記事を挙げる。記事は、文明十八年(1486)の十一月五日「明石巻新写御料紙自親王御方被下之」、十二月九日「今日明石巻立筆」、文明十九年(1487)の一月十五日「親王御方源氏御本〔明石〕」、終書写功、入夜校合□」、一月十六日「明石巻進上之」がある。

仮名字母の出現傾向に基づく分類結果から、後柏原院本「明石」は、伝称筆者として実隆が指摘される後柏原院本の

他の写本と共に同じグループに分類され、『実隆公記』の記事と一致する。本行本文の表記は、國學院本と国文研蔵正徹本と同系統内で異同が少ない程度に類似する。

五・三・四 「胡蝶」

『実隆公記』の「胡蝶」に関連した記事を挙げる。文明十九年(487)一月十六日「胡蝶卷□事、又被仰之」、二月十三日「胡蝶卷終書写功」、二月十五日「於□□胡蝶卷校合」がある。

仮名字母の出現傾向に基づく分類結果から、後柏原院本「胡蝶」は、伝称筆者として実隆が指摘される後柏原院本の他の写本と共に同じグループに分類され、『実隆公記』の記事と一致する。しかし、後柏原院本「胡蝶」の伝称筆者は、付箋がなく不明である。このため、「胡蝶」は、仮名字母の出現傾向に基づく分類結果から『実隆公記』の記事と一致することが明らかになった事例である。本行本文の表記は、調査対象の中に類似する写本は存在しない。

五・三・五 「柏木」

『実隆公記』の「柏木」に関連した記事を挙げる。文明十九年(487)二月二十八日「親王御方源氏御本(柏木)可書写之由被仰之」、三月二十三日「親王御方源氏御本(柏木)書之」、三月二十四日「源氏柏木卷終書写之功」がある。

仮名字母の出現傾向に基づく分類結果から、後柏原院本「柏木」は、伝称筆者として実隆が指摘される後柏原院本の他の写本と共に同じグループに分類され、『実隆公記』の記事と一致する。本行本文の表記は、調査対象の中に類似する写本は存在しない。

五・三・六 「総角」

『実隆公記』の「総角」に関連した記事を挙げる。長享元年(1487)閏十一月八日「〔本〔総角〕可書進上之由被仰、御料□□〕了」がある。

仮名字母の出現傾向に基づく分類結果から、後柏原院本「総角」は、伝称筆者として実隆が指摘される後柏原院本の他の写本と共に同じグループに分類される。しかし、『実隆公記』の記事は破損しているため、この記事が勝仁親王本の記事であるかは明らかではない。このため、「総角」は、仮名字母の出現傾向に基づく分類結果から『実隆公記』の記事と一致する可能性を示した例であると言える。本行本文の表記は、調査対象の中に類似する写本は存在しない。

五・三・七 「宿木」

『実隆公記』の「宿木」に関連した記事を挙げる。長享二年(1488)三月三日「親王御方源氏物語御本〔宿木〕、今日終書写功持参了」がある。後柏原院本「宿木」は伝称筆者として中山宣親が挙げられている。この記事より、実隆筆と考えられる勝仁親王本「宿木」とは一致しない。

五・三・八 「手習」

『実隆公記』の「手習」に関連した記事を挙げる。長享二年(1488)九月一日「源氏物語手習卷〔親王御方御本〕校合」がある。『実隆公記』の「手習」に関しては、実隆が校合をしていると考えられるが、書写したかは明らかではない。後柏原院本「手習」は伝称筆者として江南が挙げられていることから、『実隆公記』の記事と一致する可能性がある。また、本行本文の表記は、日本本と紅梅本と同系統内で異同が少ない程度に類似する。

五・三・九 その他

巻名は示されていないが『実隆公記』の勝仁親王本に関連した記事を挙げる。長享二年(1488)十二月九日「親王御方源氏御本外題色紙御所望之子細令伝達之処、唐紙二枚持来之」と長享三年(1490)一月八日「源氏物語(親王御方御本)滋野井書写之分加校合」がある。

前者の記事は、巻の書写の記述ではない。後者の記事に関しては、『実隆公記』の記述からはどの巻を校合したか明らかではないが、後柏原院本で伝称筆者として滋野井教国が指摘される巻は「末摘花」「横笛」「蜻蛉」である。このうち「蜻蛉」は、仮名字母の出現傾向が他の二巻とは異なり、同筆の可能性のあるグループを構成しない。

六 まとめと今後の課題

本調査では、写本作成の際に「誰がどの写本を用いて書写したのか」という疑問を考えるために、後柏原院本『源氏物語』を対象に、仮名字母の出現傾向を用いて書写者を明らかにし、本行本文の表記を用いて本文が類似し転写された可能性がある写本を明らかにすることを試みた。加えて、この調査結果を、『実隆公記』に記述されている後柏原院(勝仁親王)が関わった『源氏物語』写本の作成の記述と比較して、その一致点と矛盾点を確認した。

後柏原院本の仮名字母の出現傾向を用いた書写者の分類結果からは、高松宮家本や書陵部本といった写本とグループを構成することから、共通の人物が写本作成に関わったと考えられ、それらに近い書写年代が推定できる。これを異なる根拠に基づいて検討する。後柏原院本と、写本が多く残る実隆筆とされる『源氏物語』写本の分類結果を用いて、具体的な書写年代を検討すると、後柏原院実践祚前後の長享二年(1488)から永正十三年(1516)の間に書写された可能性

を指摘できる。これは、書陵部本の推定書写年代と重なる時期であり、後柏原院本の推定書写年代の蓋然性を高めている可能性がある。仮に、後柏原院本の伝称筆者に指摘されている公順による書写が正しいとするならば、後柏原院本の書写年代は最も早い場合、文亀二年(1502)前後が一案として考えられる。

本行本文の表記の分類結果からは、調査対象とした写本の中に多くの本文が似るといった関係のある写本を見つけることはできなかったため、書写に用いた本文に関係すると考えられる現存写本は一部を除き不明である。この結果は、表記に基づいた分類結果であるので、本文異同の調査に基づく分類結果によって新たな知見を得られる可能性がある。

『実隆公記』に後柏原院が勝仁親王であった時代の写本作成の記事が、文明十八年(1486)から長享三年(1489)の間に存在するので、後柏原本の調査結果との関係の検討を試みた。この記事と後柏原院本の実隆筆写本の分類結果を用いた比較からは、実隆筆写本の分類結果と一致する巻と一致しない巻が混在することが明らかになった。長享二年(1488)に外題に関する記事があることから、その写本作成の終了が近いと考ええると、公順の仮名字母の出現傾向から推定される書写年代である文亀二年(1502)前後とは、約十年の間があることとなる。『実隆公記』の勝仁親王本の記述と、後柏原院本の本調査結果は部分的に一致することに留まり、本調査結果からは、その関係を明らかにすることはできなかったと言える。

本調査の方法は、計量的な方法を用いているため、大量の写本を調査することが容易である。今後も、関連する写本を追加し、本調査方法を用いて、これまで調査した写本と比較し、調査を継続することを考えている。

謝辞

上野英子先生をはじめとした本文研究会の参加者の諸先生のご教示に、末筆ながら厚く御礼申し上げます。また、本研究はJSPS 科研費 JP19K00349 の支援により実施されました。

出典

調査対象写本は、出版または画像公開された写本を対象としている。公開されているURLに所蔵者の記載のない写本は、国文学研究資料館電子資料館日本古典籍総合目録DBの画像データを用いている。

- ・後柏原院本 http://dbrec.nijl.ac.jp/KTG_B_100024617
- ・國學院大学本（國學院大学図書館蔵） <https://opac.kokugakuin.ac.jp/digital/menus/index09.html>
- ・国文研蔵正徹本 http://dbrec.nijl.ac.jp/KTG_B_200010454
- ・熊本大学教育学部本 http://dbrec.nijl.ac.jp/KTG_B_100137183

注及び参考文献

[1] 稿者の方法に基づいた仮名字母の出現傾向と本行本文の表記の調査報告を挙げる。

- ・齊藤鉄也：「仮名字母の出現傾向から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付け（1）——書陵部蔵三条西家本、保坂本、大正大学本を中心とした写本との比較を通して——」実践女子大学文芸資料研究所年報第39号、pp.75-89（2020）。では、『源氏物語』写本の前半二十七帖の調査結果を報告している。
- ・齊藤鉄也：「仮名字母の出現傾向から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付け（2）——実践女子大学文芸資料研究所年報第40号、pp.181-198（2021）。では、『源氏物語』写本の前半を含み全帖の調査結果を報告している。
- ・齊藤鉄也：「仮名字母の出現傾向から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付けの調査——書陵部蔵三条西家本、保坂本、大正大学本を中心とした写本との比較を通して——」科学研究費助成事業報告書「新出資料紅梅文庫旧蔵本を中心とした三条西家源氏物語本文の再構築に関する研究」、実践女子大学文学部上野英子研究室、pp.33-48（2022）。では、紅梅本と本文が類似する熊本大学附属図書館所蔵（教育学部旧蔵）本を加えて、再調査している。
- ・齊藤鉄也：「Ngramを用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付け（1）——書陵部蔵三条西家本、保坂本、大正大学本、日本本、池田本、大島本との比較を通して——」実践女子大学文芸資料研究所年報第39号、pp.91-119（2020）。では、『源氏物語』写本の前半二十七帖の調査結果を報告している。
- ・齊藤鉄也：「Ngramを用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付け（2）——書陵部蔵三条西家本、大正大学本

を中心とした写本との比較を通して―」・実践女子大学文芸資料研究所年報第40号、pp.199-223 (2021). 以下、『源氏物語』写本の後半二十七帖の調査結果を報告している。

・齊藤鉄也：「Ngramを用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付け(3)―書陵部蔵三条西家本・吉川史料館蔵青表紙本・日本大学蔵三条西家本・蓬左文庫蔵三条西家本との比較を通して―」・実践女子大学文芸資料研究所年報第41号、pp.77-128 (2022). 以下、三条西実隆が書写に関わったとされる写本を同一の方法で全帖を対象に比較し、その分類を試みている。

・齊藤鉄也：「Ngramを用いた表記から見た紅梅文庫旧蔵本『源氏物語』の位置付けの調査―書陵部蔵三条西家本、保坂本、大正大学本、日大本、池田本、大島本を中心とした写本との比較を通して―」・科学研究費助成事業報告書「新出資料紅梅文庫旧蔵本を中心とした三条西家源氏物語本文の再構築に関する研究」・実践女子大学文学部上野英子研究室、pp.49-90 (2022). 以下、熊本大学附属図書館所蔵(教育学部旧蔵)本を加えて、再調査している。

[2] 齊藤鉄也「仮名字母の出現傾向を用いた藤原定家書写資料の調査」情報処理学会論文誌 Vol.59 No.2 315-322 (2018). 以下、仮名字母の出現傾向と文字数の関係を調査している。

[3] 齊藤鉄也「本文表記のNgramを用いた室町時代書写の源氏物語写本の分類」情報処理学会論文誌 Vol.63, No.2, (2022). 以下、本文長と本行本文の表記の関係を調査している。

[4] 宮川葉子「三条西実隆と古典学」・風間書房 (1995).

[5] 上野英子「源氏物語三条西家本の世界―室町時代享受史の「様相」」・武蔵野書院 (2019).

[6] 『実隆公記』巻一・大洋社(1931) 国立国会図書館デジタルコレクション
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1918548>

[7] 『実隆公記』東京大学史料編纂所蔵史料データベース (Hi-CAT) , (2022).

<https://www.wap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/w01/detail/full-disp/00012011?page=1&itemsperpage=200>

(淑徳大学教授・文芸資料研究所客員研究員)

	仮名		漢字		集計		書誌
後柏原院本	文字数	字母数	文字数	種類数	文字数	漢字率	伝称筆者他
01- 桐壺	5637	119	554	98	6191	8.95%	青蓮院宮尊鎮
02- 帚木	5778	120	407	63	6185	6.58%	
03- 空蟬	4510	111	286	47	4796	5.96%	飛鳥井雅俊
04- 夕顔	5302	126	513	81	5815	8.82%	逍遙院
05- 若紫	5416	109	455	84	5871	7.75%	
06- 末摘花	5668	113	368	60	6036	6.10%	滋野井教国
07- 紅葉賀	5662	117	658	122	6320	10.41%	姉小路済俊
08- 花宴	4151	119	369	85	4520	8.16%	後柏原院
09- 葵	6176	107	417	63	6593	6.32%	中山宣親
10- 賢木	5748	106	589	78	6337	9.29%	
11- 花散里	1589	105	107	39	1696	6.31%	後柏原院
12- 須磨	5177	109	583	98	5760	10.12%	姉小路済俊
13- 明石	5760	121	424	81	6184	6.86%	逍遙院
14- 滯標	5939	113	467	69	6406	7.29%	
15- 蓬生	6268	114	392	70	6660	5.89%	後柏原院
16- 関屋	2014	107	102	38	2116	4.82%	後柏原院
17- 絵合	5409	121	614	97	6023	10.19%	
18- 松風	5521	95	363	59	5884	6.17%	中御門宣胤
19- 薄雲	5453	109	420	56	5873	7.15%	中山宣親
20- 朝顔	5005	114	507	89	5512	9.20%	後柏原院
21- 少女	5522	108	604	137	6126	9.86%	姉小路済俊
22- 玉鬘	5384	106	206	49	5590	3.69%	西室僧正
23- 初音	6054	112	375	58	6429	5.83%	伏見殿南御方
24- 胡蝶	5637	117	488	77	6125	7.97%	
25- 蛩	5868	116	513	83	6381	8.04%	
26- 常夏	6166	97	319	44	6485	4.92%	
27- 篝火	1351	93	115	36	1466	7.84%	
28- 野分	6761	120	435	47	7196	6.05%	甘露寺元長
29- 行幸	10699	112	1173	123	11872	9.88%	姉小路済俊
30- 藤袴	6034	93	339	53	6373	5.32%	
31- 真木柱	6274	111	542	64	6816	7.95%	

表一 調査対象写本の本文データ

表一 調査対象写本の本文データ(続き)

	仮名		漢字		集計		書誌
後柏原院本	文字数	字母数	文字数	種類数	文字数	漢字率	伝称筆者他
32- 梅枝	5380	120	564	99	5944	9.49%	飛鳥井雅康
33- 藤裏葉	5178	116	562	94	5740	9.79%	
34- 若菜上	5879	99	467	56	6346	7.36%	中御門宣胤
35- 若菜下	5682	96	475	59	6157	7.71%	中御門宣胤
36- 柏木	5184	114	375	53	5559	6.75%	逍遙院
37- 横笛	5512	119	410	62	5922	6.92%	滋野井教国
38- 鈴虫	6062	100	414	74	6476	6.39%	
39- 夕霧	5341	109	508	89	5849	8.69%	姉小路済俊
40- 御法	5763	114	464	62	6227	7.45%	
41- 幻	6496	114	418	49	6914	6.05%	伏見殿南御方
42- 匂兵部卿	5701	123	575	95	6276	9.16%	後柏原院
43- 紅梅	5335	101	426	67	5761	7.39%	万松宗山
44- 竹河	5520	124	525	80	6045	8.68%	西室僧正
45- 橋姫	4708	105	505	88	5213	9.69%	中御門宣秀
46- 椎本	5382	113	568	83	5950	9.55%	
47- 総角	5469	122	412	59	5881	7.01%	逍遙院
48- 早蕨							
49- 宿木	5608	107	522	68	6130	8.52%	中山宣親
50- 東屋	5372	107	552	73	5924	9.32%	
51- 浮舟	5495	99	394	51	5889	6.69%	中御門宣胤
52- 蜻蛉	5465	113	402	57	5867	6.85%	滋野井教国
53- 手習	5631	110	241	29	5872	4.10%	江南
54- 夢浮橋							

	仮名		漢字		集計		書誌
高松宮家本	文字数	字母数	文字数	種類数	文字数	漢字率	伝称筆者他
01- 桐壺	6039	101	418	61	6457	6.47%	近衛政家
02- 帚木	6036	118	344	59	6380	5.39%	就山知蔵
03- 空蟬	4600	106	225	31	4825	4.66%	冷泉為広
04- 夕顔	5873	100	282	41	6155	4.58%	万里小路春房宗山
05- 若紫	6010	118	228	43	6238	3.66%	甘露寺元長
06- 末摘花	6006	92	243	43	6249	3.89%	中御門宣胤
07- 紅葉賀	6007	94	591	87	6598	8.96%	甘露寺親長
08- 花宴	4395	95	426	92	4821	8.84%	実相院准后増運
09- 葵	6721	105	417	59	7138	5.84%	覚胤法親王
10- 賢木	6110	95	532	80	6642	8.01%	宗山侍司
11- 花散里	1752	80	68	19	1820	3.74%	知恩院隆句権僧正
12- 須磨	5839	95	406	36	6245	6.50%	範意大徳
13- 明石	6085	98	345	71	6430	5.37%	一条冬良
14- 霽標	6072	108	470	67	6542	7.18%	今出川公興
15- 蓬生	6628	109	293	47	6921	4.23%	伏見宮邦高親王
16- 関屋	2070	86	88	23	2158	4.08%	知恩院隆句権僧正
17- 絵合	5392	119	658	145	6050	10.88%	姉小路基綱
18- 松風	5282	122	468	84	5750	8.14%	三条西実隆
19- 薄雲	5884	109	274	39	6158	4.45%	勧修寺政顕
20- 朝顔	5223	97	285	54	5508	5.17%	飛鳥井雅康
21- 少女	5638	104	445	74	6083	7.32%	一条冬良
22- 玉鬘	5245	110	282	49	5527	5.10%	飛鳥井雅冬
23- 初音	6214	94	298	32	6512	4.58%	知恩院隆句権僧正
24- 胡蝶	5996	92	328	43	6324	5.19%	知恩院隆句権僧正
25- 蛩	6227	101	347	38	6574	5.28%	宮内少輔政綱
26- 常夏	6227	90	342	36	6569	5.21%	知恩院隆句権僧正
27- 篝火	1326	86	121	30	1447	8.36%	知恩院隆句権僧正
28- 野分	6680	97	484	57	7164	6.76%	知恩院隆句権僧正
29- 行幸	11135	107	1025	84	12160	8.43%	宮内少輔政綱
30- 藤袴	5744	108	477	62	6221	7.67%	一条冬良
31- 真木柱	6690	96	369	50	7059	5.23%	宮内少輔政綱

表一 調査対象写本の本文データ(続き)

表一 調査対象写本の本文データ(続き)

	仮名		漢字		集計		書誌
	文字数	字母数	文字数	種類数	文字数	漢字率	伝称筆者他
高松宮家本							
32- 梅枝	5480	97	497	72	5977	8.32%	萬殊院良鎮大僧正
33- 藤裏葉	5426	98	483	86	5909	8.17%	宗山侍司
34- 若菜上	5985	92	411	58	6396	6.43%	知恩院隆句権僧正
35- 若菜下	5655	90	512	58	6167	8.30%	知恩院隆句権僧正
36- 柏木	5502	102	243	32	5745	4.23%	今出川公興
37- 横笛	5550	94	358	49	5908	6.06%	花山院政長
38- 鈴虫	5996	107	461	86	6457	7.14%	光房法眼(端六行) 宮内少輔政綱
39- 夕霧	5710	106	386	55	6096	6.33%	中御門宣秀
40- 御法	5792	93	485	65	6277	7.73%	知恩院隆句権僧正
41- 幻	6469	96	431	65	6900	6.25%	知恩院隆句権僧正
42- 勾兵部卿	5844	94	503	66	6347	7.93%	知恩院隆句権僧正
43- 紅梅	4882	89	322	48	5204	6.19%	知恩院隆句権僧正
44- 竹河	5691	89	461	63	6152	7.49%	唐橋在数
45- 橋姫	4717	105	433	68	5150	8.41%	冷泉政為
46- 椎本	5554	106	481	68	6035	7.97%	東坊城和長
47- 総角	5465	88	398	43	5863	6.79%	刑部卿治光
48- 早蕨	7584	107	489	58	8073	6.06%	中御門宣秀
49- 宿木	5526	101	515	79	6041	8.53%	伝冷泉政為
50- 東屋	5538	97	450	60	5988	7.52%	伝冷泉政為
51- 浮舟	5272	102	465	64	5737	8.11%	伝冷泉政為
52- 蜻蛉	5117	116	577	80	5694	10.13%	中院道世
53- 手習	5166	97	425	64	5591	7.60%	大僧都空済
54- 夢浮橋	5081	115	567	76	5648	10.04%	伝飛鳥井雅孝

	仮名		漢字		集計		書誌
	文字数	字母数	文字数	種類数	文字数	漢字率	伝称筆者他
國學院大学本							
01- 桐壺	5769	100	510	85	6279	8.12%	梶井宮克胤法親王
02- 帚木	5903	93	346	56	6249	5.54%	梶井宮克胤法親王
03- 空蟬	4318	118	382	88	4700	8.13%	岩山尚宗入道
04- 夕顔	5157	109	600	129	5757	10.42%	慈照院將軍義政公
05- 若紫	5295	117	525	99	5820	9.02%	中山権中納言宣親卿
06- 末摘花	5541	117	427	64	5968	7.15%	中山権中納言宣親卿 / 正親町公兼公
07- 紅葉賀	5787	107	589	102	6376	9.24%	四条大納言隆永卿
08- 花宴	4296	101	309	78	4605	6.71%	四条大納言隆永卿
09- 葵	6120	99	442	68	6562	6.74%	四条大納言隆永卿
10- 賢木	5505	105	707	98	6212	11.38%	慈照院殿御台所
11- 花散里	1561	96	114	37	1675	6.81%	慈照院殿御台所
12- 須磨	5316	111	543	80	5859	9.27%	冷泉政為卿
13- 明石	5797	108	439	71	6236	7.04%	冷泉政為卿
14- 滂標	5736	105	582	78	6318	9.21%	賀田武光
15- 蓬生	6187	98	446	66	6633	6.72%	賀田武光
16- 閨屋	1941	89	137	39	2078	6.59%	賀田武光
17- 絵合	5577	103	545	77	6122	8.90%	三条西実隆卿女
18- 松風	5524	104	382	61	5906	6.47%	三条西実隆卿女
19- 薄雲	5409	101	448	61	5857	7.65%	三条西実隆卿女
20- 朝顔	5391	102	374	45	5765	6.49%	三条西実隆卿女
21- 少女	5665	103	532	96	6197	8.58%	三条西実隆卿女
22- 玉鬘	4933	102	422	97	5355	7.88%	三条西実隆卿女
23- 初音	5740	109	537	93	6277	8.56%	正親町公兼公
24- 胡蝶	5810	97	395	47	6205	6.37%	正親町公兼公
25- 蛩	6034	105	436	66	6470	6.74%	正親町公兼公
26- 常夏	6064	100	397	37	6461	6.14%	正親町公兼公
27- 篝火	1402	86	97	30	1499	6.47%	正親町公兼公
28- 野分	6670	106	509	56	7179	7.09%	柳原大納言資定卿
29- 行幸	10954	109	1085	89	12039	9.01%	柳原大納言資定卿
30- 藤袴	5808	98	470	47	6278	7.49%	柳原大納言資定卿

表一 調査対象写本の本文データ(続き)

表一 調査対象写本の本文データ(続き)

	仮名		漢字		集計		書誌
	文字数	字母数	文字数	種類数	文字数	漢字率	伝称筆者他
國學院大学本							
31- 真木柱	6253	102	590	49	6843	8.62%	柳原大納言資定卿
32- 梅枝	5338	98	614	96	5952	10.32%	四辻権大納言季経卿
33- 藤裏葉	5396	97	491	66	5887	8.34%	四辻権大納言季経卿
34- 若菜上	5499	105	693	96	6192	11.19%	甘露寺権大納言元長卿
35- 若菜下	5170	100	700	106	5870	11.93%	山科権大納言言綱卿
36- 柏木	5363	104	329	45	5692	5.78%	松本宗綱公
37- 横笛	5551	103	401	44	5952	6.74%	松本宗綱公
38- 鈴虫	5852	100	528	75	6380	8.28%	松本宗綱公
39- 夕霧	5367	98	536	89	5903	9.08%	波々伯部五郎正盛
40- 御法							
41- 幻							
42- 匂兵部卿							
43- 紅梅							
44- 竹河							
45- 橋姫	4829	101	447	77	5276	8.47%	木下利房
46- 椎本	5276	96	630	105	5906	10.67%	木下利房
47- 総角	5517	96	382	47	5899	6.48%	三条西公条公北方
48- 早蕨	7395	99	578	67	7973	7.25%	三条西公条公北方
49- 宿木	5560	95	548	82	6108	8.97%	木下宮内少輔利房卿
50- 東屋							
51- 浮舟							
52- 蜻蛉	5170	106	538	77	5708	9.43%	正親町実望卿
53- 手習	4994	107	529	89	5523	9.58%	正親町実望卿
54- 夢浮橋	5143	103	546	72	5689	9.60%	正親町実望卿

国文研正徹本	仮名		漢字		集計		書誌
	文字数	字母数	文字数	種類数	文字数	漢字率	伝称筆者他
01- 桐壺	6011	100	400	74	6411	6.24%	
02- 帚木	6076	100	273	43	6349	4.30%	
03- 空蟬	4744	91	188	32	4932	3.81%	
04- 夕顔	5775	97	299	41	6074	4.92%	
05- 若紫	5540	95	399	62	5939	6.72%	
06- 末摘花	5726	92	339	41	6065	5.59%	
07- 紅葉賀	5834	100	555	81	6389	8.69%	
08- 花宴	4309	94	307	74	4616	6.65%	
09- 葵	6106	102	428	52	6534	6.55%	
10- 賢木	5788	102	566	68	6354	8.91%	
11- 花散里	1439	85	185	72	1624	11.39%	
12- 須磨	5511	98	445	53	5956	7.47%	
13- 明石	5959	102	361	58	6320	5.71%	
14- 滯標	5252	94	792	154	6044	13.10%	
15- 蓬生	5500	98	763	171	6263	12.18%	
16- 関屋	1677	85	257	86	1934	13.29%	
17- 絵合	4892	102	855	176	5747	14.88%	
18- 松風	4664	112	776	177	5440	14.26%	
19- 薄雲	4929	104	674	146	5603	12.03%	
20- 朝顔	4665	99	714	141	5379	13.27%	
21- 少女	5171	108	762	154	5933	12.84%	
22- 玉鬘	4572	99	592	136	5164	11.46%	
23- 初音	5429	107	675	157	6104	11.06%	
24- 胡蝶	5235	105	683	141	5918	11.54%	
25- 蛩	5523	106	663	128	6186	10.72%	
26- 常夏	5532	107	652	114	6184	10.54%	
27- 篝火	1195	98	192	71	1387	13.84%	
28- 野分	6020	104	810	134	6830	11.86%	
29- 行幸	10080	104	1445	163	11525	12.54%	
30- 藤袴	5310	104	706	116	6016	11.74%	
31- 真木柱	5748	106	787	105	6535	12.04%	

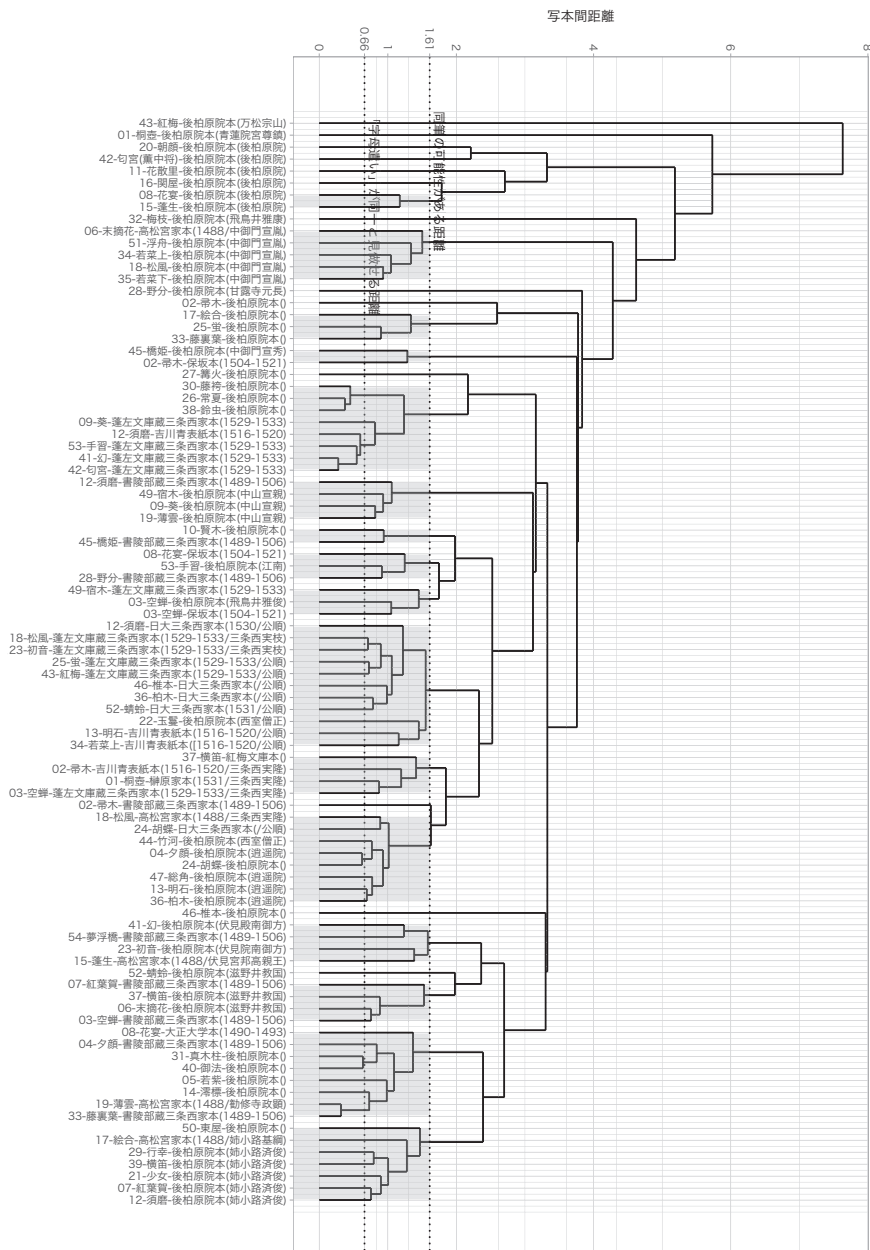
表一 調査対象写本の本文データ(続き)

表一 調査対象写本の本文データ(続き)

国文研正徹本	仮名		漢字		集計		書誌
	文字数	字母数	文字数	種類数	文字数	漢字率	伝称筆者他
32- 梅枝	4954	107	768	152	5722	13.42%	
33- 藤裏葉	4922	98	696	132	5618	12.39%	
34- 若菜上	5055	87	840	130	5895	14.25%	
35- 若菜下	4765	91	921	159	5686	16.20%	
36- 柏木	4623	85	639	117	5262	12.14%	
37- 横笛	4674	92	771	142	5445	14.16%	
38- 鈴虫	5084	104	888	175	5972	14.87%	
39- 夕霧	4839	100	742	139	5581	13.30%	
40- 御法	5021	97	815	155	5836	13.97%	
41- 幻	5500	93	893	162	6393	13.97%	
42- 匂兵部卿	5065	109	870	160	5935	14.66%	
43- 紅梅	4512	101	810	127	5322	15.22%	
44- 竹河	4918	111	827	146	5745	14.40%	
45- 橋姫	4289	108	700	152	4989	14.03%	
46- 椎本	4804	105	839	165	5643	14.87%	
47- 総角	4926	105	682	132	5608	12.16%	
48- 早蕨	6432	107	1006	159	7438	13.53%	
49- 宿木	5189	103	732	129	5921	12.36%	
50- 東屋	5461	110	540	79	6001	9.00%	
51- 浮舟	4925	106	656	112	5581	11.75%	
52- 蜻蛉	5245	98	510	88	5755	8.86%	
53- 手習	5126	107	493	99	5619	8.77%	
54- 夢浮橋	4803	101	746	130	5549	13.44%	

後柏原院本『源氏物語』の仮名字母と本文表記

図一 仮名字母の出現傾向に基づく後柏原院本の分類結果



表二 本行本文の表記に基づく後柏原院本との写本間関係

写本名	大正	書陵部	保坂	吉川	日大	蓬左	大島	國學院	紅梅	国正	池田
01- 桐壺					●				●		
02- 箒木											
03- 空蟬											
04- 夕顔					●				●		
05- 若紫											
06- 末摘花	●						●			●	
07- 紅葉賀											
08- 花宴											
09- 葵									●		
10- 賢木							●			●	
11- 花散里											
12- 須磨											
13- 明石								●		●	
14- 濤標											
15- 蓬生									*		
16- 関屋											
17- 絵合											
18- 松風											
19- 薄雲							●	●			
20- 朝顔											
21- 少女											
22- 玉鬘					●	●			●		
23- 初音	●					●			●		
24- 胡蝶											
25- 蛩											
26- 常夏											
27- 篝火											
28- 野分											
29- 行幸											
30- 藤袴											
31- 真木柱											
32- 梅枝											
33- 藤裏葉											
34- 若菜上									*		
35- 若菜下				●							
36- 柏木											
37- 横笛											
38- 鈴虫											

写本名	大正	書陵部	保坂	吉川	日大	蓬左	大島	國學院	紅梅	国正	池田
39- 夕霧											
40- 御法											
41- 幻											
42- 匂兵部卿				●							
43- 紅梅											
44- 竹河											
45- 橋姫											
46- 椎本											
47- 総角									*		
48- 早蕨											
49- 宿木											
50- 東屋											
51- 浮舟											
52- 蜻蛉											
53- 手習					●				●		
54- 夢浮橋											

表二 本行本文の表記に基づく後柏原院本との写本間関係(続き)